

西田さんの功績たたえる

宮坂英式記念
尖石縄文文化賞

考古館で授賞式

名もなき土偶は
「ぐっちゃん」

中ツ原遺跡で出土

たものを後世につないでいきたい」と意気込んだ。

名遺跡発掘から35年」と題し、らしこなどについて話した。
発掘調査の経緯や縄文人の暮

(平岡大輝)

茅野市は3日、縄文文化の研究や振興に功績のあつた研究者に贈られる第26回「宮坂英式記念尖石縄文文化賞」の授賞式を市尖石縄文考古館で開いた。縄文文化の生活実態の解明などに大きな功績があり、保存活動にもよく取り組んだとして、東名遺跡(佐賀県)の発掘、研究にあたる佐賀市地域振興部文化財課の西田巖さん(58)が賞に輝いた。

式には関係者ら約60人が出席。今井敦市長が西田さんに

賞状と木曽漆器製の盾を贈呈した。西田さんは受賞あいさつで「多くの人の協力や調査成果がもととなつて遺跡の重要性が築かれているので、そうした方々の頑張りを代表して賞をいただいたものだと思っている」と説明。2028年の開館をめどに遺跡と周辺施設の整備計画を進めているといい、「きちんとしたガイダンス施設を作り、見つかっ

たこの日は、中ツ原遺跡で2000年に出土して現在同館で展示する約50点の「名もなき土偶」の命名披露も行われた。仮面の女神出土25周年の記念イベント時にアンケートを募ったといい、回答総数85票のうち40票を占めた「ぐっちゃん」に決まったと発表された。

閉式後は西田さんが記念講演。「東名発掘ストーリー～東



今井市長から賞状を受け取る西田さん

